

建築人

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.737

2025
11





「MOAIの独言」
 日々に引かれた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
 私が惹かれるのは
 蓄積された時間が感じられるモノや光景
 自然の造形物
 今その時しかない光
 固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI
 岩手県盛岡市出身
 1985年大阪芸術大学卒
 同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
 あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
 1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
 大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2025.11 No.737

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「紫竹の家」2023年

第17回 建築人賞 受賞作品
設計：プリヤデザインー級建築士事務所
施工：かわな工業
撮影：松村芳治

京都市北区の閑静な住宅街に計画した個人住宅。植栽帯が敷地の奥行き方向に対してトオリニワのように内外を貫くイメージで設計を進めた。内部は可能な限り自然素材を用いて心地よい居場所を志向する一方で、トオリニワは人為が介在しないような深山幽谷の創造を試みた。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「立命館先端クロスバースイノベーションcommons /
グラスルーツイノベーションセンター」

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店

「東浦の家」

設計：井上久実設計室
施工：淡路工舎

「北小路 Bldg.」

設計：プリヤデザインー級建築士事務所
施工：Arcc

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 建築びとに訊く

18 記憶の建築

「埼玉会館」1966年

「都市のコア」となる群造形の試み / 松隈 洋

建築人 No.737 2025年11月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年11月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



2024年に開設30周年を迎えた立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおけるオープンイノベーション・インキュベーション施設の計画。メインストリート沿いに、地域・社会連携の拠点として、キャンパスの顔となる建物が求められた。地形、既存施設や経路空間の成り立ちなど、キャンパスのコンテキストを丁寧に紡ぎ、周辺環境と調和した景観を形成した。さらにキャンパスが持つ二軸性を重ねることで、新たな人の流れや溜まりの空間を生み、多様な広がりを感じられる空間を創造した。外部から内部、また研究の核となる場へと段階的なつながりを生む空間構成により、気軽な立ち寄りや多様な交流を誘発し、新たなイノベーションを創出する産学官連携拠点を目指した。（岩崎 宏・成田康輔・津田加奈子）

所在地：滋賀県草津市
用途：大学（研究施設）
竣工：2025.05
構造規模：S造
2階建て
敷地面積：590,050㎡
建築面積：2,772㎡
延床面積：4,245㎡
写真：母倉知樹



敷地は淡路島北東部の高台にあり、大阪湾を一望できます。眺望を最大限に生かすため、海に開かれた大きな切妻屋根のボリュームを配置し、登り梁あらかわしの天井の高い大空間としました。最小限の間仕切りにより風と光が巡る住環境を実現し、床下から取り入れた新鮮な空気を室内に循環させることで、家族のアレルギー体質にも配慮した健康で快適な暮らしを支えています。また南北に長い敷地形状を活かし、海と山への眺望や風の流れを意識して諸室を雁行配置し、パブリックからプライベート空間へと緩やかに繋がる構成としています。一直線に伸びる廊下の先の開口部や、多様な高さ・向きの開口部を通して、自然の風景を室内に取り込んでいます。

(井上久実)

所在地：兵庫県淡路市
用途：1戸建て住宅
竣工：2025.06
構造規模：木造
平屋建て
敷地面積：1,350.18㎡
建築面積：159.80㎡
延床面積：144.87㎡
写真：富田英次



京都御苑近く、閑静なビジネス街におけるオフィスと住宅の複合プロジェクト。異なる性格の用途をいかに一つの建築に共存させるかが主題であった。階段室、EVをテラスや庭と関連付け、内/外部の中間領域として6m×28mの矩形敷地の2箇所に内包することで、各部屋の独立性を確立した。一つ目は道路側に、二つ目は敷地中央に中庭として配し、建物全体で風や光、緑が感じられつつもEV棟によって向かい合う部屋同士の視界を制御した。建築を構成する素材は力強いコンクリートと手触りの良い檜と硬質なスチールに絞り、旧市街地型美観地区の景観条例に沿って高さを調整した底の連なりと、三層を貫く小叩き壁によって、抜け感と躍動感のある外観とした。

所在地：京都市中京区
用途：事務所併用住宅
竣工：2025.05
構造規模：RC造3階建
敷地面積：165.23㎡
建築面積：126.24㎡
延床面積：359.72㎡
写真：松村芳治

2025年 「建築人賞」作品募集



審査委員長 古谷 誠章

早稲田大学 名誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所(～1987年)
1984年 (有)ナスカ(NASCA)設立
1984年 早稲田大学理工学部助教授(～1987年)
1997年 早稲田大学理工学部教授(現・創造理工学部教授)(～2025年)
2017年 第55代 日本建築学会会長(～2019年)
2020年 早稲田大学芸術学校校長(～2024年)
2021年 東京建築士会会長(～2025年)
2024年～ 日本建築士会連合会会長

「建築人Gallery」掲載作品は 『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 ㈱ロクレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 ㈱Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103

動静レポート

会長動静

- 9/22 香港工業総会および日本建築材料協会との意見交換会
- 9/26～9/28 第47回全道大会 中標津大会
- 9/30 大阪府収用委員会
- 10/2 日本建築士会連合会・財政健全化検討TF
- 10/3 建築紛争セミナー
- 10/7 部門長面談
- 10/10 正副会長会議、第68回大阪建築コンクール受賞者講演会+トークセッション
- 10/14 大阪府収用委員会
- 10/15 在阪建築16団体会長・支部長午餐会、理事会
- 10/17 建築士定期講習
- 10/20 第2回医療建築連携自治体実践委員会
- 10/21 建材情報交流会
- 10/22 東大阪市固定資産評価審査委員会
- 10/24 副会長・部門長面談

10月度 理事会報告

日時 10月15日(水) 16:00～18:00
場所 本会東会議室
出席 理事 34/45名 監事 2/2名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	8・9月計	累計
収入	16,872,994	99,514,909
支出	26,798,810	68,842,963
差引	-9,925,816	30,671,946

(人)	8・9月	入会	退会
正会員	2,109	5	3
準会員	28	0	0
特準会員	22	0	0
賛助会員	153	0	0
計	2,312	5	3

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

【報告事項等】

(2) 臨時総会の出欠回答状況

実出席 31名、委任状 855名の合計 886名

となっており、議案「定款の変更」の審議に必要な正会員の半数まで168名分の回答が不足していることから、未回答者への個別連絡や往復はがきの郵送を行う予定です。

(3) 公益認定法に基づく立入検査

大阪府法務課より、公益法人が概ね4年ごとに受ける立入検査を12/4に実施する旨の通知がありました。

(4) 「命を守る ひと部屋」シンポジウム in 大阪の共催

(一社)健康省エネ住宅を推進する国民会議より11/22のシンポジウムの共催依頼があり承認しました。

(5) 新北市建築師公會との交流

11/28の新北市建築師公會の来日時は工事現場の見学会を行い、12/13の第54回全国大会には本会より岡本会長をはじめ4名が出席予定です。

(6) 建築士サポートセンターの業務委託延長
本年1月から開設しているサポートセンターは今後も一定数の相談利用が見込まれることから、国土交通省の要請を受け業務委託期間を来年1月末まで延長しました。

(7) 文化庁補助事業指摘への対応の進捗状況
令和6年度の補助事業実績報告書の修正により補助金の精算額を確定し、10月末の文化庁からの請求を受けて返金の予定です。

(8) 近畿建築士会協議会でのU40準備会の設立

40歳以下の若手建築士の入会促進や交流を目的としたU40近畿ブロック建築士表彰の令和8年度からの開催にむけて、ブロック内にて準備会を設立する予定です。

(9) おおさか大会の開催結果について下記の通り報告しました。

- ・当日受付を含む大会登録者数は2,927名となりました。
- ・皆様のご協力により各企業からの協賛金が予算を大きく上回りました。
- ・大会記念誌や特設HPの制作費等の経費を大幅に削減することができました。

- ・11月中旬に報告書を作成し、年内に次年度大会開催の群馬建築士会との引継ぎ会を開催する予定です。

(10) 定款第21条4項に基づく事業執行の報告を行いました。

香港工業総会、日本建築材料協会との意見交換会を開催

9/22にセンタラグランドホテル大阪にて、香港工業総会と日本建築材料協会と本会の3団体による意見交換会を開催いたしました。両団体とは平成28年に覚書を締結しており、今回の意見交換はその交流事業の一環となります。各団体の活動や両国の経済状況についての報告が行われ、その後活発な意見交換が行われました。



大阪急性期総合医療センターの災害訓練に参加

10/21に大阪急性期総合医療センターにおいて、上町断層帯地震が発生したという想定で、的確かつ迅速な判断のための被害状況報告システム(iCAS)を使用した写真付き建物被害情報の判定に対応した災害医療訓練を実施し、本会からは応急危険度判定士3人が参加しました。本会は医療センターと震度6弱以上の地震が発生したとき、応急危険度判定を行う協定を平成29年に締結しています。



現地指揮所応急危険度判定士として訓練

「ATEREA GARDEN」光亜興産本社ビル特別見学会

日程：令和7年10月11日（土）

会場：光亜興産本社ビル

参加者：24名

2025年10月11日（土）、門真市にある「ATEREA GARDEN」光亜興産本社ビルの特別見学会が参加者24名で行われました。この建物は、第68回大阪建築コンクール 渡辺節賞を受賞された作品です。

秋晴れの中、京阪古川橋駅より街路樹に導かれ歩道を歩いてゆくと、ほどなく緑をまとったビルが公園の隣に現れます。公共の公園に面しており、とてもまちなじんでいる印象を受けました。

特別見学会では、実際に設計された日建設計 設計グループ アソシエイトの佐賀さんと眞庭さんに、施設概要説明とビルの見学をしながらの説明をしていただき、最後に質疑応答が行われました。

施設概要説明では、過去の作品を見ながら日ごろお二方が設計をする上で大切にしていること、その物件で考えたことなどを説明していただき、そして今回の設計では立地条

件、「まちづくりの会社」である光亜興産様の事業内容を踏まえた上での工夫や提案、経緯などをうかがうことができました。

2班に分かれての見学会では、実際に建物を見ながらどのような経緯でこのようになったかという丁寧な説明をしていただき、参加者は思い思いに写真を撮り、質問をし、お互いの感想を口にしたりと、じっくり建物を拝見することができました。ほかの参加者の質問や感想を聞くことができたのも、とてもよい刺激となり充実した見学ができました。見学の最後に説明をしてくださっていた佐賀さんが「まちを見ながらまちのことを考えるビル」とおっしゃっていたのが印象的でした。

今回の見学会は、概要説明だけでなく実際に設計された方が実際の建物の中を案内してくださり、また他の参加者の生の声がきけるととても刺激的なものでした。普段の仕事では会えない方たちとの交流もでき、参加する

堀田智子（青年女性委員会 委員）



ことができてとてもよかったと思っています。これからもこのような見学会があれば、ぜひ参加したいと思いました。

案内をしてくださった日建設計のお二方と、貴重な社屋を見学させていただいた光亜興産様に心より感謝いたします。



倉方俊輔氏と歩く 大阪・関西万博 — 建築が映す社会の姿

2025年9月20日、建築史家で大阪公立大学教授の倉方俊輔氏の案内で、大阪・関西万博会場を見学した。倉方氏は、建築の歴史や社会との関わりを踏まえ、会場全体の構成や各パビリオンの背景、設計者の意図を筋道立てて語られた。建築は時代の価値観や社会を映す表現であり、今回の万博では多様性や環境への配慮といったテーマが建築の形として現れていると説明された。建築士の役割は形をつくるだけでなく、社会の変化をどう受け止め、未来へ提案していくかにあるという言葉が心に残った。

はじめに、会場全体の計画や動線設計について解説があり、来場者が自然に流れ、会場を

回遊できるよう動線が整理されていることが示された。広大な敷地をまとめる都市計画的な考え方や、建築を通して人の体験を導く空間構成の意図が紹介された。続いて、木質構造を生かした住友林業のパビリオンなどを外観中心に見学し、素材の扱いや架構の見せ方、自然素材の魅力と環境配慮の両立が語られた。各建築が異なる文化や技術の表現でありながら、来場者に「建築を通して何を伝えるか」を問いかけていることが印象深かった。途中、会場の象徴である「大屋根リング」の下で、その構造的特徴や設計の考え方について説明を受けた。リングは会場全体をつなぐ巨大な架構であり、空間を緩やかに包み込み、

人々の動線と視線を導く存在として機能している。日差しや風、来場者のざわめきが建築と響き合い、会場全体が一つの体験として構成されていることを実感した。倉方氏は、万博を建築の展示ではなく「社会の実験場」と捉え、建築が社会の理想をどう形にするかを考える場と述べた。

終盤にはバーレーン館やサテライトスタジオなどを巡り、建築が文化・社会・環境を結びつける媒介としての役割を果たしていることが整理された。倉方氏の案内を通じ、万博建築の多様性を感じ、建築士としての姿勢を改めて考える機会となった。

（増田 裕一郎／青年女性委員会）



会場全体を解説



木構造の魅力を語る



万博建築を読み解く



記念の一枚

建築士会からのお知らせ

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

大阪・関西万博の開催期間にあわせて2025年3月号～10月号に掲載させていただきました「シリーズ 大阪・関西万博をめぐる」について、全記事を一つのデータにまとめました。右記QRコードよりご覧ください。



【WEB版】確認申請の構造図書作成講座
10/1～12/26 CPD3単位

今まで作成したことがなかった確認申請の構造図書。その作成の基本を知るだけであなたは確認申請の構造図書作成のマスターと呼ばれる。そんな講座がスタート！
訂正項目が少なく審査がしやすい構造図書が作成できれば建築着工も安心。
常に変化している確認申請の世界。改正された壁量計算基準や柱の小径などの、木造使用規定（在来軸組工法）の内容が解る。
※2025年6月12日に開催した同名講座と同内容です。
配信期間 10/1（水）10：00～12/26（金）17：00
受講料 建築士会会員4,000円
後援団体会員4,500円
一般5,000円

既存住宅状況調査技術者講習
更新講習11/7、2/25
CPD更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士の方に認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。
▼更新講習（DVD）
日時 11/7（金）、2/25（水） 13：30～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）

受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円
▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyochosa.html>

R7年度
大阪府ヘリテージマネージャー・ステップアップ講座兼スキルアップ講習
「『登録』に向けて一民家・茶室の特徴と所見作成・実測のスキルアップ」
11/16 CPD 5単位

民家や茶室の特徴や地域性を、「日向椎葉の民家」で学び、「北河内の茶室」「摂津能勢の民家」「堂島の米蔵」「河内布施の長屋門」等を見学しながら実地でその特徴を学びます。最後にグループに分かれて実測演習を行います。
日時 11/16（日）
10：10～15：45（受付10：00～）
会場 日本民家集落博物館 日向椎葉の民家
※入館料600円（団体割引）が必要です。
※開館時間は9：30～17：00です。
講師 地村 邦夫（ちむら くに）氏
貝塚市教育委員会教育部
社会教育課参事兼文化財保存活用室長
資料代

本会会員大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員・今年度育成講座の受講生・補講生：2,500円＋入館料600円（団体割引）
会員外：3,500円＋入館料600円（団体割引）

令和7年度 建築士定期講習
11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員
11/20（木）大阪府建築健保会館 70名
※12/12（金）大阪府建築健保会館 80名
1/21（水）大阪府建築健保会館 70名
※2/13（金）大阪府建築健保会館 80名
3/26（木）大阪府建築健保会館 70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9：15～17：00（各講習日共）
受講料 12,980円（消費税含。事前入金）
申込 建築技術教育普及センターHPより

令和7年度監理技術者講習
11/21、12/19、1/14、3/11 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。
日時 11/21（金）、12/19（金）、1/14（水）、3/11（水）
8：55～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

令和7年度 はじめよう、文化財の活用
11/9、12/7、12/14、12/21、2/11

毎回異なる国登録文化財などを会場に、ワークショップや建物見学、まち歩きなどを行います。歴史的建造物やまちなみ、そして伝統文化などを楽しみませんか。
第1回 11/9（日）
『小津安二郎監督「浮草物語」』
会場 旧朝日湯（泉佐野市）
第2回 12/7（日）
「歴史が息づく大広間で楽しむ和菓子づくり」
会場 市立枚方宿鍵屋資料館（枚方市）
第3回 12/14（日）



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

「能の入り口に入ろう」
会場 正木記念邸(忠岡町)
第4回 12/21(日)
「文楽人形でほっと一息」
会場 廣海家住宅(貝塚市)
第5回 2/11(水・祝)
「茶の湯にふれる」
会場 伴林氏神社(藤井寺市)
詳細は建築士会HPに掲載

令和7年度「御財印めぐり」
『池上曾根弥生学習館で和菓子作り』
11/23

国史跡・池上曾根遺跡をテーマにして国登録無形文化財・和菓子のワークショップを行います。練り切りで勾玉等を作ります。
講師 出口 勝正氏(国登録無形文化財保持団体所属の優秀和菓子職)
日時 11/23(日) 10:30～または13:30～
会場 池上曾根弥生学習館
泉大津市千原町2-12-45
参加費 2,500円
定員 各回20名(申込先着順)
申込 カルテット・オンライン
問合せ 大阪府登録文化財所有者の会
事務局 info@osaka-tobunkai.org
詳細は『大阪文化財ナビ』に掲載
<https://osaka-bunkazainavi.org/>

トカイナカ いずみ景観さんぽ!! 2025秋
第1弾 和泉中央編
11/30

和泉市とその周辺にお住いの方向けに、和泉市の景観を考える機会を提供し、景観意識の醸成を図る目的でまちあるきイベントを開催します。現代アートも堪能する「アートコース」(講師:後藤健一郎氏・和泉市久保惣記念美術館学芸員)と、新旧の風景を再発見する「まちなみコース」(講師:陸奥賢氏・コモンズデザイナー)を準備しています。
日時 11/30(日)
13:00～17:00(受付12:30～)
対象 小学4年生以上
※1時間以上歩くイベントのため

場所 和泉シティプラザ 集合
久保惣記念美術館 解散
参加費 大人1,000円
大学生・高校生800円
中学生500円
※久保惣記念美術館入館料含む
募集定員 40名(申込先着順)

わくわく探検(駅前シリーズ)第22弾
大和川付け替えて消えた幻の吉田川跡をぶらり散策
―地名に宿る川の記憶―
近鉄けいはんな線～奈良線編
12/13 CPD2単位予定

建築士の会「東大阪」では、わくわく探検(駅前シリーズ)を開催します。
今回は近鉄けいはんな線 吉田駅を出発してかつての吉田川の流れを地名や地形に探しながら、町の記憶を辿る約4.5kmの歴史散策。失われた川の痕跡とともに、静かにまちの成り立ちを感じてみませんか。
恒例の賞品が当たるクイズもご用意。皆様のご参加をお待ちしております。
日時 12/13(土) 9:00～
集合 近鉄けいはんな線 吉田駅改札
解散 近鉄奈良線 河内花園駅
募集 30名(申し込み先着順)
参加費 会員・一般1,500円 学生500円

令和8年在阪建築16団体合同
新年交礼会
1/5

毎年恒例の在阪建築16団体による合同の新年交礼会を開催いたします。
日時 1/5(月) 15:00～16:00
会場 リーガロイヤルホテル2階「山楽」
会費 4,000円
申込締切日 12/3(水)
※会費を添えて本会事務局までお申込ください。12/3(水)までにご欠席のご連絡がない場合は会費をご負担願います。

第20回国際企画海外研修旅行
「インドネシア」
2/19～25 CPD申請予定

今回はインドネシアのボロブドゥール、スラバヤ、バリを巡ります。ボロブドゥールの世界遺産、スラバヤ工科大学との交流会、バリではケチャの鑑賞等を予定しています。
日時 2/19(木)～25(水)
申込 12/20(土)まで
参加費 詳細未定につき申込者には別途お知らせいたします。
申込については事務局までご連絡ください。

【予告】高槻城公園芸術文化劇場見学会
3/19 CPD2単位(予定)

日本建築学会作品賞を受賞した高槻城公園芸術文化劇場を設計者から説明いただき、見学します。大ホールも見学いただけますので、是非ご予約ください。
日時 3/19(木)
14:20～16:15(集合受付14:00)
受講料 会員・一般ともに3,000円(予定)
会場 高槻城公園芸術文化劇場 南館
定員 120名
申込 後日HPにてお知らせします。

第67回建築士会全国大会おおさか大会、無事完遂！

おおさか大会実行委員会 広報部会（建築情報委員会） 松下典央

2025年9月19日、グランキューブ大阪（大阪国際会議場）において、第67回建築士会全国大会「おおさか大会」が開催され、全国の建築士や関係諸団体および関係者3000名以上をお迎えし、活況の中、無事終了致しました。ご協力頂いた会員の皆様、お疲れさまでした。

2023年9月に、記念行事部門の徳岡副会長と仙入部門長、水谷委員長はじめ、担当理事等のもと、各部門や各委員会の代表者による実行委員会が発足しました。毎月第一月曜日の夜に委員会を開催し、延べ26回を越える委員会を重ねて来ました。大きく4つの部会に分かれ、昨年（2024年）の第66回鹿児島大会での「おおさか大会」のアピール企画に始まり、大会コンセプトや大会ポスターの検討、さまざまな企画検討、スケジュール調整、会場予約と段取り、協賛・協力の募集など、多くの検討を重ねてきました。

鹿児島大会でのおおさかアピールと大会運営の視察を終えた後、実行委員会の委員の「おおさか大会」開催に向けたベクトルが一気に揃ったように感じました。各検討段階において、各部会が手探りの中、課題や問題に直面し、加えて予定外の事象も加わり、それでも実行委員会で議論を重ね、一つずつしっかりと解決を行って来れたのは、実行委員会の強い責任感と結束力があつたからだと思っています。

実行委員会の各部会の活動内容を紹介すると、広報部会は2025年4月号建築士に掲載された「おおさか大会」へのいざない特集の原稿をまとめ、大阪府建築士会ホームページに大会のサイトの作成・運営、全国大会誌の編集を行いました。

受付部会は、当日の受付から会場設営・運営、大阪関西万博やエクスカッションの企画・運営、前日の参加者配布品の準備、昼食弁当の準備等、来場者の皆さまが安心してお越し頂き、スムーズな大会開催の実施を行いました。

式典・講演部会は、記念講演や大阪講演の企画・運営、大会式典の準備・運営（シナリオ作成）、大交流会の企画・運営とおおさか大会成功の要となる重要な役割を担いました。

協賛部会は、賛助会員はじめ協賛企業の募集や協賛ブースの準備を行い、83社からの協力・協賛を集め、38企業ブースの展覧があり、会場の3階企業出展と休憩・食事エリアづくりを行いました。

また、「大阪らしさ」を考えた来場者配布ノベルティは、大阪府市から大阪関西万博グッズを提供頂き、本会からは大いに悩んだ末、大阪天満宮にある「すべらんうどん」と、日本サンテリアの「大阪生まれのフリフリみくちゅじゅーちゅ」を用意しました。

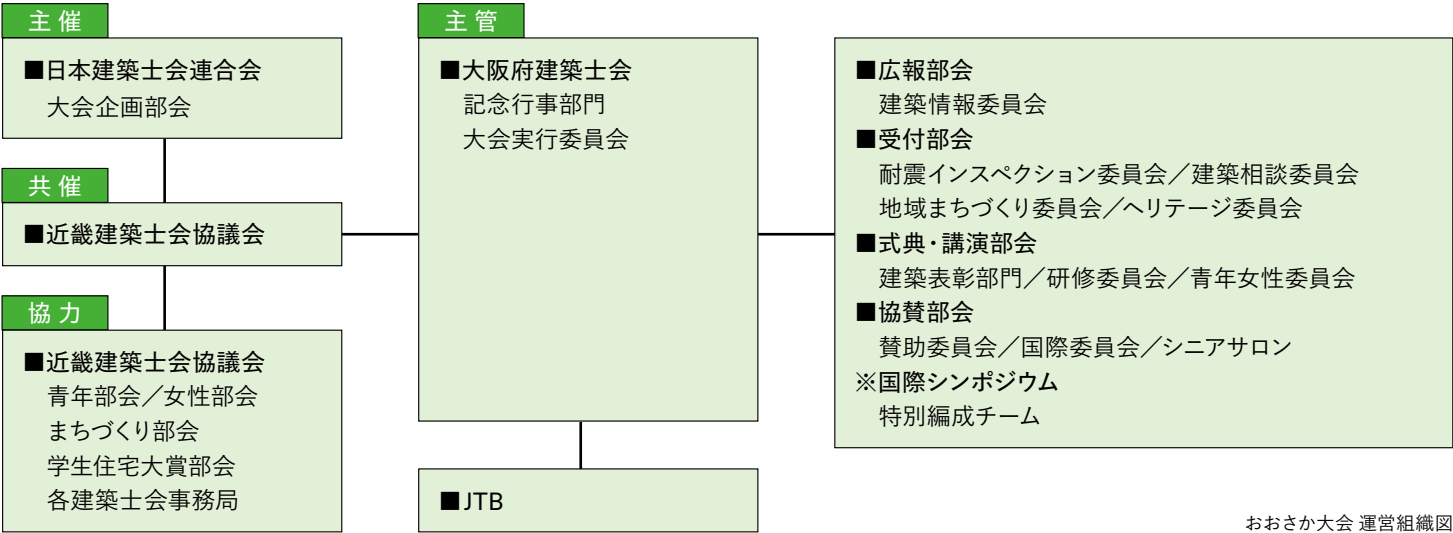
大会翌日は、大阪関西万博を楽しんで頂くために1000枚近いチケット用意し、エクスカッションでは、「大阪らしさ」を満喫頂くために、



中之島・船場周辺の街歩きと、大阪ならではのクルージングを用意しました。

本大会の様子は、2026年2月号の「建築士」に、『おおさか大会の報告』が掲載され、実行委員会の各部会にて、最後の活動として、この報告記事の執筆を行っています。

最後になりましたが、ご協賛・ご協力いただいた企業や団体の皆さま、当建築士会事務局はじめ、さまざまなご尽力を頂いた皆さまに心より御礼申し上げます。また、近畿5府県の各建築士会より、当日の運営サポートを頂き、ありがとうございました。



おおさか大会 運営組織図

前日準備

来場者に配布する
大会誌やノベルティ
の袋詰めを行いました



配布物整理中



3500個に及ぶ袋詰め



来場者配布ノベルティ

総合受付 企業出展 休憩・食事エリア

3階に集約すること
で賑いました



1階Welcome パネル



総合受付の様子



蓬萊豚まん販売



企業ブースと休憩所

セッション会場

各委員会等で熱気
いっぱいのセッション
が繰り広げられました



受付の様子



木のまちづくりの様子



女性委員会の様子



歴史まちづくりの様子

記念講演 大阪講演

大阪の街と未来に
絡むテーマの講演
を開催しました



クリスチャン氏による講演



万博ドイツ館について



小林竑一氏による講演



庭園都市について

大会式典

地車囃子のオープ
ニングセレモニーと
共に盛大に大会が
催されました



オープニングの地車囃子



岡本会長の挨拶



古谷連合会長の挨拶



群馬へ大会旗引継

大交流会

1000名を超える参
加者で賑やかに開
催しました



オープニングの御神楽



会場全体の様子



群馬のアピールタイム



大阪締めで閉会

エクスカーショ

多くの応募者の中
から、抽選で参加頂
きました



中之島中央公会堂集合



船場界限街歩き



川から見る中之島界隈



堂島川クルーズ



三井 嶺 Rei Mitsui

特集「建築びとに訊く」は、建築に関わる「建築びと」に未来の建築について語っていただきます。建築そのものだけでなく、「人」に焦点を当てる事で、多角的な視点や新規性も踏まえた幅広いテーマについてお話を伺います。

社会全体が目まぐるしく変化するにおいて、建築界も常に進化を求められています。建築はデザイン、テクノロジー、人間哲学、ライフスタイルなど様々な職域をまたいで成立すると考えられます。建築の未来を見通すためには、順応性を高めるために広い視野を持つと同時に、未来に繋がる上で重要なポイントにフォーカスする目線が必要であると考えます。

様々な「建築びと」の視点を垣間見ること、建築界全体の未来への一歩へ繋がることを期待しています。

第四回目は、現在開催中の2025大阪・関西万博で、ポップアップステージ西を担当された三井嶺氏にインタビューを行いました。

万博という祭りに対し、人が造るミニマムな祝祭の場の創造をテーマに、松皮付の丸太一本で勝負を掛けたデザインには、脈々と繋がる日本の茶室の伝統からの学びを基に三井氏の研ぎ澄ました感性と突き詰めた技術が結集していました。

一方で、建設工事中から、ワークショップで丸太の建て起こしを行ない、今回は屋根の松葉葺き替えワークショップを開催され、皆で作る祭りの場を実践されています。

ワークショップ会場を訪れ、ワークショップへの思いと建築への取組みをなどのお話を聞かせて頂きました。

略歴

2006年	東京大学工学部建築学科卒業
2008年	東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程(日本建築史)修了
2008年	坂茂建築設計
2015年	三井嶺建築設計事務所設立

主な受賞

2022年	2025年日本国際博覧会 休憩所他設計業務公募型プロポーザル 優秀提案者
2021年	「住宅建築賞2021」住宅建築賞受賞
2019年	「ウッドデザイン賞2019」受賞 「AACA賞」奨励賞受賞
2018年	「ウッドシティTOKYOモデル建築賞」 最優秀賞受賞
2017年	「U-35 Architects exhibition」 最優秀賞受賞

ー本日は、このワークショップの内容や設計活動などの関係をお聞かせ頂こうと思います。まずは三井さんの建築に関わるきっかけをお話ください。

私は大学で、日本建築史の藤井恵介研究室で茶室の研究をしました。「茶室」というと中村昌生先生が研究し尽くした感じで、研究対象にするのは中々難しいように思われているのですが、私はもともと設計をやるつもりで歴史研に行ったので、様々な歴史的建造物の中で何を研究対象にしようかなと考えた時、茶室が一番意味不明で、それゆえに面白いと思いました。建築の一般的なロジック、特に現代建築のロジックに茶室や桂離宮などは嵌まっていなくて、「これは何だ?」と、『待庵』や『如庵』などの茶室は、理屈抜きでめちゃくちゃ面白い。でも、既往研究を読んでも、理由は説明されていないで、設計者の立場として納得できる深い考察をしたいと思い研究を始めました。藤井先生には、修士論文の内容を建築学会で発表するように言われていますが、未だに発表出来ていません。宿題ですね。

意匠設計の教育では、大抵、歴史は過去の様式化した物で、モダニズムから始まりますが、設計者の視点で茶室をしっかりと見ると、古典の設計からも学ぶべきだと思います。

茶室をやると、「三井さんは古いのが好きなんですか?」と言われますが、そんなことは全然ありません。私の中で、桃山はいまだに日本文化の頂点にあると思っていて、その先をやりたいという気持ちから茶室を研究しています。今年の7月号の新建築の住宅特集で表紙に載せてもらった『Tull Weekend Home』のような作品もやっているし、デビュー作の『日本橋旧テラー堀屋改修』では、鋳物で耐震補強をやり、アールヌーボー、ギマールみたいなことを、現代のエンジニアリングとコンピューショナルデザインで融合させました。その後は、『柳小路南角』という中大規模木造のプロジェクトで、接着剤を使わずにビスだけで四寸角の製材を束ねた『束ね材』で木造を作りました。接着剤を使うとチップにしか行き場がないので、そうじゃない使い方を、集成材が当たり前になっている中大規模木造に一石を投じるつもりで、一般に流通している製材で考えました。きっかけとしては、個人的に感じていた集成材のジョイントの気持ち悪さがあります。いかにエンジニアリングでは成立していて、「ピンで力を伝達しています。」と言われても、ガラスの床みたいな気持ち悪さはありませんか。戦車が乗っても壊れないガラスの床でも、そこでは寝たくない。そんな気持ち悪さを集成材のジョイントには感じています。



ポップアップステージ西 松葉葺き替えワークショップの様子

これが私の言う『視覚的構造合理性』というテーマで、今回の万博の『ポップアップステージ西』も、丸太をポンと乗せて支えたような構造としています。柱は中央が少し太くなったステンレスの鋳物で作ったピン柱で、足元は隠れていますが装飾が加えてあり、キャンドルホルダーみたいになっています。人がモノをどう認知するかというのもテーマの一つで、柱は認知からうまくズラすことで存在感が軽やかになることを狙っています。このあたりは近々『建築ジャーナル』の特集で発表されるのでぜひ読んでいただきたいです。古典と最新を地続きで扱おうという私の建築への関わり方を知っていただけたと思います。

ー大阪・関西万博のプロポーザルに参加された経緯や動機は何でしょうか。

参加したきっかけは、オブジェみたいな建物が発表され始めて、これは違うのではないかと思いました。オブジェみたいな、それ自体が目的化するような建物はやめた方がいいんじゃないかと思い、応募しました。

応募して担当となったのがステージです。

場ができればいいと思い、場ができるには目印をつくらばいいと考えました。最初は、何もつくらずに、奈良の『春日若宮おん祭り』の芝舞台みたいに地面が盛り上がっていて、それで人が集まれば何も要らないかなと思いました。でも、一応ちょっとした目印があった方が良くと考えて、とにかくシンプルに、原始的なもののあり方を探りました。

ーポップアップステージが生まれた発想の根本は何でしょうか。

人間がはじめに原初として生み出した空間は、門型だと思います。富士山や太陽などの自然物は点となり、点があると円の空間が出来ます。人間はその点の空間を模倣してオペリスクやピラミッドを作り、点と円の空間を模倣してストーンヘンジが出来たりしています。その次に人間が行った行為は二つ同じものを作る事で、これは人間しかできないものです。二つ同じ物を立て、その上に一本掛けると、鳥居みたいな物になり、古今東西を問わず目にする門型が生まれるわけです。

立っている木を倒して、持ち上げると異様

じゃないですか。石は立てると何かに見立てができて、空間ができる。同じように、木も本来立ち木で立っている物で、伏せるとそれだけで場ができるのではないかと考え、門型を構成する二本の柱の存在も消して、上にある梁の丸太だけで場が出来ているように考えました。

実は、左右にあるコンテナが、構造的に肝心な要素となっています。ですが、大げさに見えないように、ステージを邪魔しないようにと、私のテーマの一つである記号性と認知を駆使しています。コンテナの外装は今までの万博開催国の海岸線と南極大陸をトリミングした迷彩柄。作為で作った曲線ではなく、地球上にある形です。誰もが世界地図など何処かでこの曲線を見たことがあるはず。サブリミナル効果、或いはデジャブのように、派手な迷彩柄なのにストレスなく見る人の意識になじんでいるはず。実際、誰もがノーコメントで、デザインしたこと、さらにはそこにあることに気づいていないようです。



コンテナの迷彩柄デザイン

ーポップアップステージの建築計画について、お聞かせてください。

空間に対する私の理想は、茶室からの学びの究極のあり方として、建築は必要なくて、自然があれば良いと思っています。だけど、美しく快適な自然はそうそう無いじゃないですか。大体汚いし怖いし、景色が良いなあと思って座れる所が無かったりして、やっぱり人間が整備する事になる。人間が作るけど、目立って格好いいとかでは無く、ストレスの無いようにというのが理想で、一言で言えば居心地が

良いのが一番であり、そのために意識に消えるというのを一つのテーマとしています。

ポップアップステージでは丸太一本あれば良く、丸太一本以外は存在が消えていることが大事です。あの鋳物柱は、実際は大きな力を負担していて構造上は大事な役割があります。だけど、いかにも踏んばっているという構造表現主義ではなくて、涼しい顔をしながらきっちり支えているというようなイメージで、柱の存在を消しています。

丸太は、柱頭にある刺股みたいな形状で視覚的に支えられているように見えますが、構造的には要らない形状です。中のプレートで支えているので刺股状の形状はただの装飾です。でも、あれが無いと、「プレートが入ってます。」と言っても、それは見えないのでどこか支えている感じがなく、不安定感があると思いませんか。

茶室もこういった視覚的な工夫をいろいろとやっていて、例えば窓の鴨居や敷居、釣木の勝ち負けとかも、視覚的な構造の合理性ともいうべき理屈で出来ています。例えば、窓は実際には土壁が支えています、土壁が支えている風には見えなくて、窓が力学とは異なるレベルで成り立っているように見えます。詳しくは、『窓研究所』(<https://madoken.jp/>)に書いていますので、一度読んで頂けたらと思います。

屋根は動きます。360度オープンなステージがこの場所にはふさわしいのですが、成立させるには何か仕掛けがあると考えました。屋根を前に倒していると緞帳の代わりになり、出し物が始まるとドーンと回って背景になるという仕掛けになっています。しかし、これはあまり動かして貰えていません。私のコンセプトの至らなさですね。この大きさの屋根が動くことに、飛行機が怖いみたいな感覚を人が抱いてしまうのと同じで、エンジニアリングが理に適っているのが、人が感覚的に怖いと思うのでしょうか。

屋根は、アラップがエンジニアリングでしっかり設計してあり、たった1500ワットの小さなモーターで動いてバランスが取れていて、電源が切れても回らない仕組みになっていますが、それでも大きな物が見たことのない仕組みで動くと言う怖さがあり、あまり動かしてもらえないのかもしれませんが。散々、心地の良さとか言っているのに、怖さを与えてしまったことは反省であり、発見でもありました。

この動くということも大事なテーマの一つで、動くものは建築物という枠組みから外れます。フェルディナン・ド・ソシュールらの記号論を人間は本能的に理解していると私は思ってい



丸太を支える刺股状の柱

ます。例えば、あの柱も細くて装飾的に作っていますが、もしH鋼であれば柱だ、建築だと人は認識してしまうので、鉄骨造でない姿をしているのが、今回の柱のデザインとして大事だと思っています。

同じように、屋根も動く舞台装置みたいに見えて、建築物というカテゴリーから外れます。そうすると、丸太の存在だけが残ります。結果として、柱と屋根の存在が消えて、丸太だけで場ができています。

ー万博で、ワークショップを企画したきっかけは何でしょうか。

ホームページを見て頂くと分かりますが、私は普段こういうワークショップなどのコミュニティ作りと対極にある仕事を中心にしています。物にしか興味がなく、ディテールフェチというか、物が大好きなタイプです。

でも、万博では、ひとりよがり無く、ワークショップとして力を合わせてやるべきだと思いました。昔の万博は、文字通り博覧会でしたが、今はお祭りのような性格が強く、世界規模の学園祭とか文化祭のような感じがあると思っています。

お祭りのようなもののなのに、皆が一歩引いた目で見てるのが、違和感がありました。そこで、ステージの丸太をみんなで建て起こし、

今回の松葉葺きもみんなの手で葺くことで、他人事でなく「自分ごと」になる。そうすると、皆さんの万博への関わり方や意識が変わり、今回の万博のテーマに近づいて行くのではないかと考えています。

丸太や松葉は何処の産地から調達したのでしょうか。

今回の松葉は京丹波から持ってきました。今、松を材として育てている所がなくなって来ています。銘木の赤松も良いものがだんだん少なくなってきていて、茶室の仕事の方ではこれから苦労しそうです。今回の松葉葺きは、安井奎さんと京丹波の森林組合の御協力で、松葉を集めて頂きました。

丸太から三井さんの建築思想は表現されているのでしょうか。

建築物はゴールではなく、何かをイメージや連想させるものであるべきだというのが私の理想の一つにあります。このぐらい立派な松だと、山で立っていた姿や、山自体を思い浮かべられるぐらいの立派さがあると思います。確かに立派な松ですが、それ自体が目的ではなく、松を通して山などのイメージをできることが重要だと思います。

丸太の建て起こしは、京都の祇園祭の山鉦建ての掛け声に倣って行いました。そうすることで、祇園祭にもイメージが繋がっていくし、松葉は春日若宮おん祭りを写しているのでも、春日大社のことにも話が及んでいき、単なる建築家の作品止まりでなくなります。春日若宮おん祭りは、とても素晴らしく、これからの時代にこそ見つめなおすべきだと思っていて、この万博のステージを通して知って頂けたらという思いがあります。

ご出身の町では、代表的な祭りはあるのでしょうか。

愛知県の武豊という町の出身で、醸造の町で味噌と醤油を今もつくり続けています。隣には半田市があり、ミツカンで有名です。同じく醸造ですね。祭りでは、大きな山車が有ります。小さい町なので、町のほぼ全員が祭りに参加していた記憶があります。



イベント開催の様子

万博に参加し、ワークショップをされて、三井さん自身に変化がありましたでしょうか。

また、これからの建築活動等に何か繋いで行こうという考えはあるのでしょうか。

万博という多くの人の目に触れることで、コンセプトや意義を伝えるために、分かりにくくなりがちな建築家の文章ではなく、広く伝えられる言葉で発表しようと心掛けています。その過程の中で、改めて目指すべき道が見えてきたようにも感じています。

もう一つは、自分が信念としているコンセプトを職人のように淡々とあらゆる形・建築でチャレンジしていこうという決意を新たにしました。

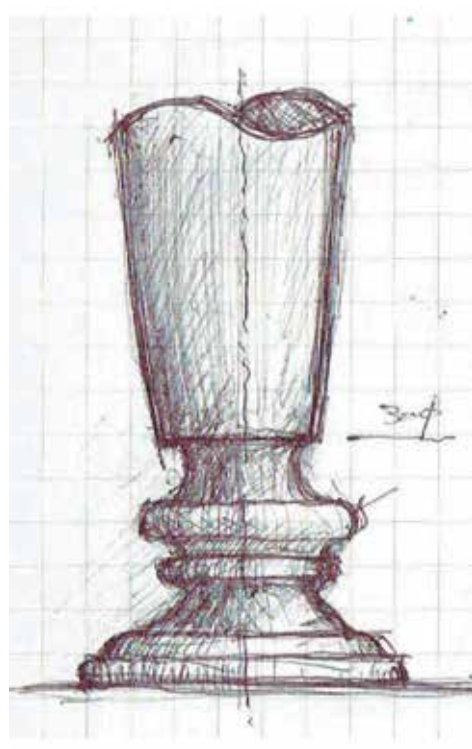
実は、柱の装飾のコンセプトを試みるのは2回目、[「神宮前スタジオAギャラリー」]というリノベーションのプロジェクトで同様のコンセプトで作っています。やり切ったつもりでいましたが、今回改めて万博の場でチャレンジし、コンテクストに合わせることで進化し、発見もありました。

例えば、陶芸家は同じ物を作って、ようやく百個に一個、千個に一個会心の物が出来ますよね。私も自分の信念を強く持って、物のあり方を突き詰めていきたいと思います。

聞き手 武藤優哉 昇勇
母倉政美 松下典央



神宮前スタジオAギャラリー



神宮前スタジオAギャラリーの柱とスケッチ



万が一の 設計ミスに 備えて!!

経営安定化のために、

万が一の賠償請求への備えはできていますか？

近年の建築士法の改正により、

「保険加入等の賠償資力確保が努力義務」となっています。

また「発注者側」が契約の条件に

「保険の加入を求めてくる事例も増加」しています。

2025年4月施行

建築基準法

(4号特例縮小)

建築物省エネ法

**の改正にも
対応**

約**6,500**社の建築士事務所が加入する

建築士会
会員のための

建築士賠償責任保険 けんばい

特長

設計業務等のリスクに備えた建築士会会員のための補償制度です。

建築士の
ミスによる事故を
総合的にカバー



イメージ相違等で
発注者から受ける
訴訟費用も補償対象



情報漏えい補償や
労災補償などの
各種オプションもご用意^(※)



(※) サイバーリスク保険、業務災害総合保険、請負業者賠償責任保険

ご加入の流れ

建築士会
非会員の方

まずは
建築士会に
入会

各都道府県
建築士会に連絡 → 建築士会入会

建築士会
会員の方

公益社団法人日本建築士会連合会のホームページ



日本建築士会
共済補償制度
WEB SITE
<https://kenchikushikai.aic-agt.co.jp/>



補償内容、
お見積りは
こちら

保険制度のご案内



●重要事項説明書(契約概要のご説明・注意喚起情報のご説明)は、以下のいずれかの方法によりご確認ください。
a. QRコードからアクセス先に掲載の重要事項説明書(印刷・保管されることをおすすめいたします) b. 重要事項説明書の冊子(ご希望の場合は、日本建築士会連合会 建築士賠償責任補償制度(けんばい)係までご連絡ください)
●このポスターは建築士賠償責任補償制度(けんばい)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は建築士賠償責任補償制度のパンフレットをご覧ください。
●詳細は保険会社よりご契約者である団体の代表者にお渡ししてあります保険約款によりますがご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。なお、保険の内容につきましては、取扱保険代理店よりご案内させていただきます。

((公社)日本建築士会連合会共済補償制度係・取扱代理店)

株式会社 エイアイシー

2025年5月作成 25T-000170



玄関から内部への見え



リビングからダイニング・庭